

# 森林での教育活動を通じた 持続可能な社会づくりに向けて — 学校での森林教育をすすめるために —

## 学校教育からの森林への期待

教育分野から森林や林業への関心が高まっています。近年、環境に配慮した持続可能な社会づくりを目指して、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」(平成二十三年)が制定され、環境教育が推進されてきました。その背景には、都市型の生活が一般化する中で、子どもたちの自然体験不足の問題があります。特に、林野庁が中心となって進められている森林環境教育や木育など、森林や木に関する教育「森林教育」(図1)では、森林の中のさまざまな体験を通じて森林への理解を深める活動や、木材にふれて、木の良さを感じる活動が行われており、学校教育への貢献が期待されます(写真1)。

## 森林教育の目的

「森林教育」とは、何のためのどんな教育でし

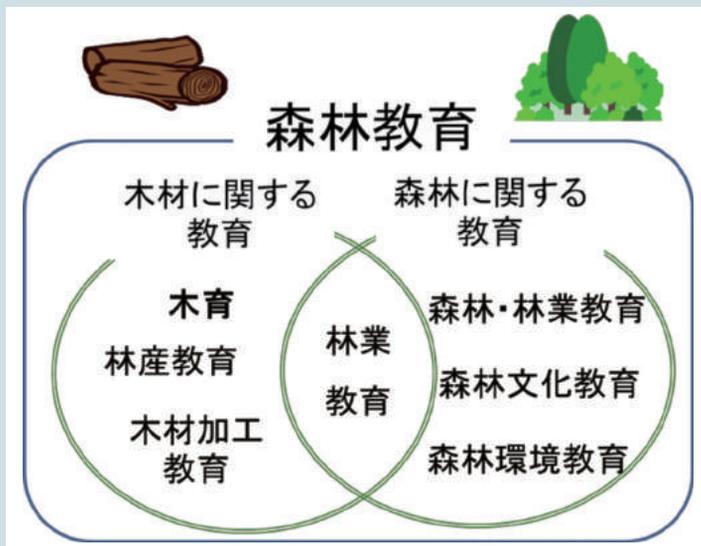


図1 森林や木に関する教育

ようか。学校教育で行われている森林教育活動の事例をみてみますと、間伐などの林業体験活動や、植物・動物などの自然観察学習、木の実や枝での

多摩森林科学園 主任研究員

井上 真理子

多摩森林科学園 教育的資源研究グループ長 大石 康彦

クラフト製作などのものづくり活動、登山やハイキングなどの自然体験活動、キャンプや野外炊飯などでのコミュニケーション活動など、多様です(図2)。そこで、実践されている森林教育活動の実態調査をもとに、活動の目的について分析しました。その結果、森林教育は、森林への理解の促進や、林業などを通じた森林と人間社会との関わりへの理解の深化、さらに森林での体験活動を通じた感性や社会性の育成や心身の鍛錬、循環型社会の実現に向けた人材育成など、幅広い目的で行われていることがわかりました。

## 学校教育の中で森林教育をすすめるには

森林教育は、多様な内容を含みますが、教科での位置づけが明確になっていないため、学校では

扱いにくいのが現状です。そこで、「森林教育」について明確にするために、実態調査から把握された幅広い目的を包

括し、教育や環境教育の目的に沿って森林教育の目的をとりまとめ、教えるべき「森林の5原則」「森林との関わり」の5原則」を整理しました。これらの原則は、持続可能な社会の実現を目指したESD (Education for Sustainable Development) の理念にもつながるものです。「森林教育」の整理によって、教育関係者等の森林関係者以外に理解しやすいようにしています(図3)。

「森林教育」とは何かという理解が深まることで、学校教育の中で取り上げられる機会が広がることを期待しています。森林教育が広く実践



写真1 高校生の林業体験(多摩森林科学園 2012年サイエンスキャンプ)

会の実現につながるでしょう。

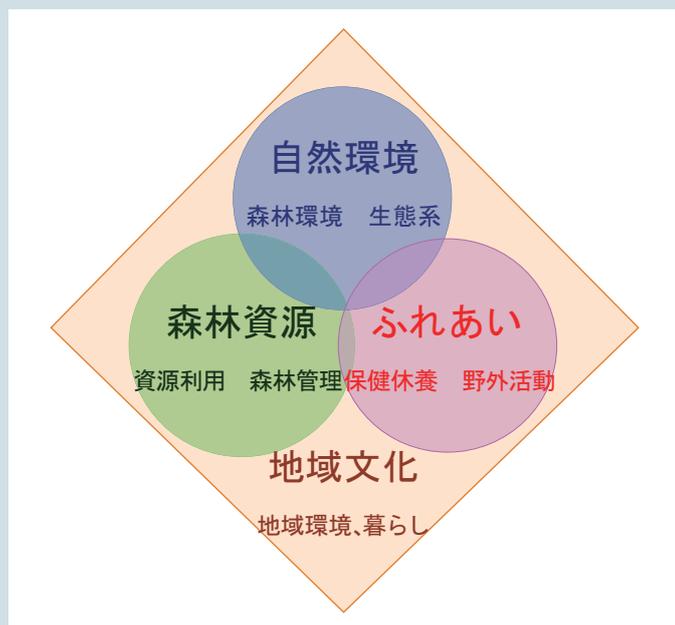


図2 森林教育の内容の4要素

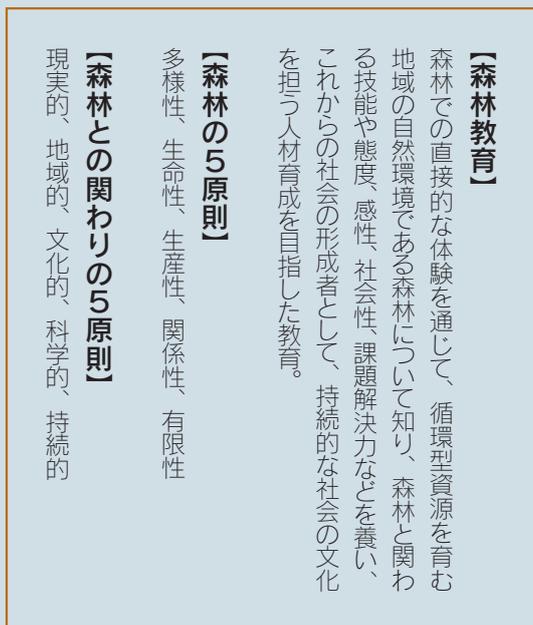


図3 森林教育の定義と教えるべき2つの5原則